

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09020180

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	15 環境の保全	事業優先度	A	
単位施策	1 自然環境の保護・再生	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	鳥獣残渣等処理事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	鳥獣残渣の適切な処理		#N/A	
事業目標	処理頭数 エゾシカ1500頭	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	鳥獣の残渣処理	鳥獣の残渣処理	鳥獣の残渣処理	鳥獣の残渣処理	鳥獣の残渣処理	鳥獣の残渣処理
	事業費(千円)	12,780	2,180	2,650	2,650	2,650
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	12,780	2,180	2,650	2,650	2,650	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	13,281	1,842	2,489	2,653	2,577
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	559				559	
一般財源	12,722	1,842	2,489	2,653	2,577	
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 鳥獣の残渣処理	(実施内容等) 鳥獣の残渣処理	(実施内容等) 鳥獣の残渣処理	(実施内容等) 鳥獣の残渣処理	(実施内容等) 鳥獣の残渣処理
	【評価・実績】					
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 エゾシカの残渣処理 300頭	エゾシカの残渣処理 300頭	エゾシカの残渣処理 300頭	エゾシカの残渣処理 300頭	エゾシカの残渣処理 300頭
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 84%	94%	100%	97%	140%
	全体達成率 14%	34%	55%	75%	104%	
	備考欄					

事業名	鳥獣残渣等処理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	渡部 憲一

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	鳥獣残渣	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	エゾシカ残渣処理頭数
【抱える課題やニーズは】	増加する鳥獣残渣の処理と廃棄物最終処分場への負荷	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	鳥獣残渣の縮減化と廃棄物最終処分場の負荷の軽減及び環境保全	① 残渣処理頭数÷残渣処理計画頭数	目標年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	残渣処理の衛生的問題の解消と残渣の縮減化、廃棄物最終処分場の延命		実績年度
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	微生物(エスパス菌)の菌床維持管理	鳥獣残渣等処理施設で、微生物(エスパス菌)を用いた菌床の維持管理を委託した。	
	施設での残渣等処理	鳥獣残渣等処理施設で、残渣の受け入れと菌床への埋設、菌床の攪拌等の管理業務を委託した。	
		②	目標年度
			実績年度
			達成度
			#DIV/0! %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	鳥獣残渣を直接埋設処分するよりも衛生的かつ効果的であることから、必要性が高い。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	鳥獣残渣を白骨化させ、残渣そのものを縮減化することができ、廃棄物最終処分場へ残った骨だけを埋設処理しているので、衛生面の課題解消と最終処分場の受入容量確保へ繋がった。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	エスパス菌の菌床を使用することで、安価かつ効果的な鳥獣残渣処理を行うことができる。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町内一円で生じた鳥獣残渣を処理している。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
鳥獣残渣を直接埋設処分するよりも衛生的かつ効果的であることから、今後も計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
残渣そのものを縮減化することで衛生面の課題解消や廃棄物最終処分場の延命に繋がることから、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止